

令和3年度特色入試問題

《 農学部 応用生命科学科 》

小論文試験

250点満点

(注意)

1. 問題冊子および解答冊子は係員の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに4ページある。
3. 解答冊子は表紙のほかに4ページある。なお、別に下書き用紙2枚を配布する。
4. 試験開始後、解答冊子の表紙所定欄に受験番号・氏名をはっきり記入すること。
表紙には、これら以外のことを書いてはならない。
5. 解答はすべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
6. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
7. 解答冊子は、どのページも切り離してはならない。
8. 問題冊子は持ち帰ること。解答冊子と下書き用紙は持ち帰ってはならない。

農学部応用生命科学科小論文試験は、問題2のみ公開する。

問題 2

次の文章は、遺伝子組換え技術が発展し始めた時期に、科学者たち自らが組織したアシロマ会議での声明文からの抜粋です。

この声明が出されてから45年が経ち、当時とは比べものにならないくらい遺伝子操作技術（広義の遺伝子組換え技術）は進歩しました。当時の科学者たちが出した声明文の下線部の方針を現在の状況にあてはめて、以下の（1）、（2）に答えなさい。

（1）下線部の方針に対する肯定側、否定側のそれぞれの立場の主張を日本語で述べなさい。

（2）あなたが肯定側、否定側のいずれであるか立場を明確にした上で、相手側主張に対する反論を日本語で述べなさい。

文章の出典は P. Berg, D. Baltimore, S. Brenner, R. O. Roblin and M. F. Singer, *Summary Statement of the Asilomar Conference on Recombinant DNA Molecules*, 米国科学アカデミー紀要 (PNAS) , 1975 年, 72 巻, 1981 頁より抜粋 (一部改変)

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC432675/pdf/pnas00049-0007.pdf>

上記の本文 I 部分 (右カラム 13 行目まで)。問題 2 (1) の「下線部」とは、左カラム下から 3 行目から右カラム 7 行目まで